

手嶋貫太さん(15)
=日田市大明中3年=



第15回

「いっしょに読もう！」
新聞コンクール



教育に新聞を

奨励賞

用意された大量の新聞記事の中からピンとくるものがないか迷っていたが、見出しと体裁に興味を引かれ、手にしたときは確信もいたものがあった。選んだのは「eスポーツ障害者にも」(本紙2024年1月1日付)。

「ゲームが好きなのでまず引かれた。体の不自由な方々でも楽しめるという観点に心をもち選んだ。障害者が使う機器進歩のニュースは以前から耳にしていたので、読んでみようかと思った」と話す。

母親や友人との話し合いでさらに興味が深まった。技術

「もっと知りたい」社会に目 意欲芽生え、周囲と話し合い

◇下◇

の進歩や活動の広がりを感じられたが、「もっと知ってきたい」という意欲も芽生えた。作品では「いまだ障害者にとって不便が多い。一人一人の思いと行動で社会は変わる」と訴えた。

初めての取り組みでの受賞は「驚いた。素直にうれしい」と喜ぶ。「記事をまとめ、どういったところに着目して書いたらいいか、着眼点が難しかった。文章を書くのは多少苦戦したが、粘り強く書いた。言葉を選ぶのに苦労した」と感想。

新聞との付き合いは、「親からは読めと言われるのですが、」普段はあまり読まないという。だが、コンクールを通してイメージが変わった。「自分でも積極的にもっと読んでみたいと思った。関心は深まった。新聞はいろいろな事柄が詳しく書いてあるので、読み取れるところがいい。多くの情報を得ることができるので、ニュースを取ることがは将来も続けていきたい」と社会に目を向ける。

(三股秀明)